

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

参考 1

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

| 分類 | ご意見・ご指摘 | 回答（当日） | 対応 | 備考 |
|-------|--|---------------|--|----|
| プロローグ | | | | |
| 1 | エネルギー変遷について、福島県は炭や水力発電も盛んであったため、扱いを検討してほしい。 | | 資料を調査した上で、「P-2の常磐炭田開発の部分」もしくは「P-3新エネルギーの部分」に当時の様子の追加を検討する。 | |
| 2 | 津波から建屋水素爆発の間に、全交流電源喪失などの経過を追加したい。 | | P-5の津波が襲った後に全交流電源喪失の内容を追加。 | |
| 3 | 発災直後の視点は国を挙げての対応などがあったため、その要素は追加したい。 | | P-5の建屋水素爆発の後に国の対応（自衛隊、消防庁など）を追加。 | |
| 4 | この災害は様々な問題を世界に投げかけた側面もある。プロローグ以外のゾーンでの取り上げでも良いが、国内外へ向けての学習機能もほしい。再生可能エネルギーの導入等のエネルギー政策、廃炉など。 | | 「復興への挑戦」を中心に他のコンテンツで対応予定。 | |
| 5 | 住民の帰還が進むにあたり、全国、海外からの多くの支援があったことを加えたい。“人”が見えるとよい。 | | 映像素材を調査の上、対応を検討する。 | |
| 6 | 現在進行形の災害であるが、この映像をいつまで使うか、更新をどう考えるかが重要となる。 | | 2020年の開館時の情報を基本として考えているが、プロローグ映像では復興が始まっていることを伝えてエンディングとしているため、復興が進んでも違和感のないように配慮している。この映像の他に開館5年後を目安としてプロローグで上映可能な追加映像の制作を検討している。 | |
| 7 | 導入映像のため、インパクトが重要である。この後の展示を「見てみたい」という印象を残せるとよい。 | | 大型・多面スクリーンで没入感のある演出を検討する。ただし、資料映像の揺れによる映像酔いや津波などのPTSDを誘発する演出は配慮をしながら検討を進める。 | |
| 8 | 多くの人・団体が一緒に見るため、映像の長さが気になる。 | プロローグ映像は8分程度。 | 映像尺は8分程度の想定だが、制作を進める中で適切な尺を検討していく。 | |
| 9 | ねらいにある「原子力発電所と生活を共にし、安全性を信頼してきた人々」の内容をどう示すか。 | | 「P-4の事故前の暮らし」の部分で資料映像を使い表現する。 | |
| 10 | 会津・中通りの日常生活も失われてしまったような誤解が無いように構成してほしい。 | | 一部、会津・中通り（避難所、仮設住宅、各自治体の対応等）を描くなど被害が全県に及んだことは表現しつつ、誤解の無いように配慮して検討する。 | |
| 11 | 地震のカウントダウンの前に全県的な情報を出す、誤解を与える。P-4については、震災前の浜通りの日常生活に絞って良いのではないか。 | | | |

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

参考1

| 分類 | ご意見・ご指摘 | 回答（当日） | 対応 | 備考 |
|---------------------|---|--|--|----|
| | 12 伝統工芸は、震災後もなお続いているものなので、現在の様子を取り上げるエンディングに持っていく方が良い。 | | エンディングで取り上げる方向で検討する。 | |
| | 13 オープニングの全県的な情報の後、浜通りのエネルギー変遷の話に移行する際など、全県的一部分的な話に切り替わる時は、それが伝わるよう、構成に工夫が必要。 | | 映像の編集を含め、誤解の無いように配慮して検討する。 | |
| 災害の始まり 【事故前の暮らし】 | 14 事故前の暮らしのコーナーで、避難区域の人口の変遷は示されるか？ 冒頭の基礎情報として、人口等が入ってもよいと思う。どれだけの人が被害を被ったのかを知ることができる。 展示アテンドスタッフの口頭説明で示すのも手。長期化ゾーンで取り上げる場合も、前後の比較などグラフィックパネルや模型で示せると良い。 | 当該コーナーで、人口変遷について掲載予定はなかった。長期化のゾーンにはタッチパネルモニターで情報を見せる予定である。 | 「長期化する原子力災害への対応」で紹介することに加え、「事故前の暮らし」の解説グラフィックで紹介することを検討する。 | |
| | 15 学校数の推移を取り入れても良い。学校数の推移は子供の数と比例するため、人口推移が分かりやすい。 | | 「事故前の暮らし」の解説グラフィックで紹介することを検討する。 | |
| | 16 映像シナリオについて、観光情報が多いように感じるが、学校生活などの日常生活を示すことも重要。震災当日は地域の学校の卒業式だったはず。 | | 映像素材を調査の上、対応を検討する。 | |
| | 17 映像シナリオについて、冒頭が事故後の様子だと暗い印象になってしまうか。 | | 現在の様子から遡るが、映像的には桜並木を映す等、暗い印象になりすぎないように、構成する。 | |
| | 18 映像シナリオについて、町の大半が津波被害を受けている請戸地区を取り上げてよい。 | | 映像素材を調査の上、対応を検討する。 | |
| | 19 展示全体として、扱うのは浜通り地域で良いのか？ | 基本は全県的に扱う。ただし、原子力災害に焦点を当てるのが当施設のコンセプトであるため、浜通りの話題が多くなっている。 | | |
| | 20 展示ゾーンは、このゾーンだけ、と個別に見るようなことはできるのか。 | 特定のゾーンのみを観覧していただく想定はしておらず、プロローグ～復興への挑戦まで全てを見ていただく導線設計している。 | | |
| | 21 モノや空間には限りがあるため、語り部による生の声で、展示には反映しきれていない情報も伝えていくことが重要。 | | 語り部や展示アテンドスタッフについて、施設内に配置する予定。具体的な配置計画については、運営計画と合わせて検討していく。 | |
| | 22 一部の地域だけではなく、福島県全体として課題を抱えているという意識を伝えたい。 | | 基本は全県的に扱うため、ご指摘の内容を踏まえて展示全体の検討を進める。 | |

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

参考1

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

| 分類 | ご意見・ご指摘 | 回答（当日） | 対応 | 備考 | |
|------------------------------|---------|--|------------------------------|--|--|
| 災害の始まり 【東日本大震災～地震と津波の記録～】 | 23 | 震災・原子力災害について全体的に扱うのであれば、A2-2で会津や中通りの被害なども紹介してはどうか。 | | 地震・津波の様子を伝える映像で、会津・中通りの被害も伝える。 | |
| | 24 | 以降の展示の基本情報となるため、県内の震災による被害（関連死など）の全体像を示す方が良い。 | | 震災（地震・津波）の被害は、コーナー冒頭の解説内に死者数等を記載予定。ただし、関連死の詳細（「関連死とは」等）については原子力災害による影響が大きいと考えられるため、次コーナー以降での記載を検討する。 | |
| | 25 | 人口流出、コミュニティ喪失が大きな被害としてあるため、グラフィック解説などに取り入れられると良い。 | | 本コーナーでは、詳細な解説グラフィックは計画されていない。人口流出・コミュニティ喪失は原子力災害によるもの大きいと思われるので、長期避難の部分で紹介することを検討する。 | |
| | 26 | 事務局より、資料番号032（津波被災郵便ポスト）、033（津波被災交通標識）について、展示ケース発注の都合上、他資料に先行して展示確定としたい旨説明。 | 【委員回答】2点について先行確定とする旨異論なし。 | | |
| | 27 | ポストや道路標識などは、津波でなぎ倒されたイメージからすると寝かせて展示するか。 | 展示方法は今後検討する。 | 資料サイズから寝かせて展示することは困難。演示具の形状を含めて検討する。 | |
| 災害の始まり 【原子力発電所事故の発生】 | 28 | 映像シナリオについて、「想定外の」等、言葉には配慮が必要。 | | 注意が必要な文言について、修正。 | |
| 災害の始まり 【災害対策本部の記録】 | 29 | オフサイトセンターの資料収集が進んでいると思うが、県庁の文書等の収集状況はどうなっているか？ | 今年度関係課との調整を行い、次年度以降、収集に着手予定。 | | |
| | 30 | 事務局より、資料番号067（福島第一原子力発電所周辺図-1）、068（福島第一原子力発電所周辺図-2）について、展示ケース発注の都合上、他資料に先行して展示確定としたい旨説明。 | 【委員回答】2点について先行確定とする旨異論なし。 | | |
| | 31 | オフサイトセンターの地図などは、実物の迫力を伝えたいというのがあるが、壁等への映像投射で展示するという手法もある。 | | 展示全体として映像が多くなっていることと、実物が持つ迫力を活かしたいため、実物での展示とする。資料は同サイズで2種類あるが、一定期間で入れ替えることも検討。 | |

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

| 分類 | ご意見・ご指摘 | 回答（当日） | 対応 | 備考 |
|---|--|------------------------|--|----|
| 原子力発電所事故直後の対応 【避難の開始】 | 32 避難の全体像を紹介することが必要だと思う。自主避難のことなども説明したい。 | | 自主避難について、「県内に広がる不安」コーナーの「原発避難の7日間」映像では紹介しているが、合わせて解説グラフィックへの盛り込みも検討する。「避難の開始」コーナー、「県内に広がる不安」のどちらで取り上げるかについても、解説文と合わせて検討する。 | |
| | 33 「避難の開始」では避難指示が出された地域のみを取り扱い、自主避難については「県内に広がる不安」で取り上げるか、または、「避難の開始」でまとめて取り上げるか、検討の余地がある。 | | | |
| 原子力発電所事故直後の対応 【県内に広がる不安（原発避難の7日間）】 | 34 タッチパネルで選択になるが、映像尺はどれくらいか？ | 映像尺は検討中。あまり長くないようにしたい。 | 今後、詳細検討を進める中で検討する。 | |
| | 35 NHKの素材ということだが、様々な事故調査報告書があるため、どれを基準にするか等配慮が必要となる。 | | 事故調査報告書も含め、情報の出典を明確にするよう、精査を進める。 | |
| | 36 「避難を強いられた人々」について、大熊・双葉は比較的早期にスムーズに避難した。浪江、富岡などの動きを扱うことも検討してほしい。慎重に情報を扱う必要がある。 | | 浪江、富岡の動きも取り扱うことを検討する。 | |
| | 37 実物での補足等も検討してほしい。 | | 展示ケースがあるため、収集資料の状況と合わせて検討する。 | |
| | 38 いわき市は4・11で物流が滞った。このことも触れたい。 | | 4.11の被害は原発事故による被害というよりは、地震被害が大きいため、「地震と津波の記録」コーナーで取り上げることを検討する。コーナー解説または、証言映像のインタビューで取り扱うことを検討する。 | |
| | 39 県外の人にも多くの不安を与えたことは説明したい。 | | 「国内外の反応と支援」の解説グラフィックでの紹介を検討。 | |
| | 40 国によっては、自国民を退避させるなどの対応もあった。このことも伝えたい。 | | 「国内外の反応と支援」の証言映像や解説グラフィックでの紹介を検討。 | |
| | 41 この災害は情報の扱い、伝え方を問われた災害であった。今後の大災害に備えての方針も伝えたい。 | | ご指摘の内容を展示として伝えるにはかなりのボリュームになることが想定されるため、展示では当時の実態を伝えることに主眼を置き、防災的な視点は研修などで扱うこととしたい。 | |
| | 42 富岡から川内に避難する車列の写真を、震災伝承の活動で使用しているが、この写真1枚から多くのことを語れる。こういった写真があると良い。 | | 映像やグラフィックでの紹介を検討。 | |
| 43 スクリーニングの写真は、当時の県民の不安が伝わる写真でもあると思うので、ぜひ展示したい。 | | 映像やグラフィックでの紹介を検討。 | | |

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

| 分類 | ご意見・ご指摘 | 回答（当日） | 対応 | 備考 |
|------------------------------|---|---|--|----|
| | 44 空港に泊まる人々もいた。その写真等も収集したい。 | | 映像やグラフィックでの紹介を検討。 | |
| | 45 双葉病院に入院していた方々の避難等、災害弱者の状況も扱いたい。 | | 映像に盛り込めるか素材調査を行い、検討する。 | |
| 原子力発電所事故直後の対応 【国内外の反応と支援】 | 46 支援に対する感謝の部分は展示されるか？ | 支援物等の実物展示のキャプション等で、示すことを検討している。 | | |
| | 47 県内にいた外国人の方の行動について今後の資料収集・インタビューに反映できるとよい。展示できれば、海外の方が当時の様子を思い出し、共感するきっかけにもなる。また、情報として収集し、研究等に使用できるのでは。 | | 証言映像のインタビュー候補者に、外国人の方も取り入れられるよう、検討する。また、収集事業でも外国人の方も証言収集に取り組みたい。 | |
| 県民の想い | 48 プロローグと同じような印象を受ける。ここでイメージ映像のようになってしまうのは主旨がちがうのでは？県民の想いはしっかりと表現できるか？ | プロローグは事実をたどっていくもの。ここでは「県民の想い」を中心に構成する。個別映像はじっくり見る人もいれば、流してしまう方もいるため、全体演出を入れている。 | | |
| | 49 証言映像との違いは？ | 各コーナーの証言映像は“想い”というよりは、実際の体験や状況などを中心に語ってもらう。「県民の想い」については当時の“想い”中心に語ってもらう。 | | |
| | 50 全体演出に唐突感が出ないように配慮が必要。 | | 4か所に設置される「県民の想い」を紹介するモニターの映像が急に途切れるなどの状況が無いように検討する。 | |
| | 51 個別の証言映像がしっかりと見られるように全体演出のタイミング等を配慮してほしい。 | | | |
| | 52 全体演出の風景映像などは不要だと考える。証言の組み合わせのみで良いのでは。 | | 証言を中心に構成するが、全体にストーリー性を持たせるため、関連する資料映像を合わせて構成する。 | |
| | 53 証言映像は、話している本人の表情と合わせて使用したほうが、より感情が伝わる。 | | 撮影の際に許可を得て、表情と合わせて使用する。 | |
| | 54 コミュニティが崩壊してしまったことを伝えたい。 | | 証言内容によるが、映像シナリオに組み込むことを検討する。また、実物資料との関連やグラフィックパネルとして紹介することも検討する。 | |
| | 55 避難に伴い、家族同然のペットや、家畜を置いていかなければならなかった悲しみ等も表現したい。 | | 証言内容によるが、映像シナリオに組み込むことを検討する。また、実物資料との関連やグラフィックパネルとして紹介することも検討する。 | |

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

参考 1

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

| 分類 | ご意見・ご指摘 | 回答（当日） | 対応 | 備考 |
|----|--|-----------------------------------|---|----|
| 56 | 広島と異なり、原子力災害の場合は不安などの目に見えない被害が多い。そこをどう表現するかが課題となる。県民の言葉が中心となるが、避難（転校）後のいじめなどの問題は顔を出すことが難しい。しかし、実態としては紹介すべきである。 | | 証言内容によるが、映像シナリオに組み込むことを検討する。また、実物資料との関連やグラフィックパネルとして紹介することも検討する。 | |
| 57 | 音の干渉等に配慮して、ゾーンを分けられないか？個別の映像をじっくり見ている人に対し、全体演出が邪魔にならないようにしたい。 | | 個別映像と全体映像が同時に流れることは想定していない。個別映像同士の音干渉はモニターの配置とスピーカー位置の調整で検討する。 | |
| 58 | 想いを語ってもらう時に、人それぞれの状況が異なる。前向きな人、深刻な人などベクトルが異なる人の声を聞きとるにあたり、配慮が必要である。 | | インタビューの際は、相手の状況に配慮する。また、証言映像においては証言者の被災状況がわかるようにする（被災場所、職業など）。 | |
| 59 | インタビュー対象者の現在の状況は聞くのか（当時は〇〇だったけど、今は〇〇と考えている、など）？当時持っていた不安を聞くだけでなくするように配慮するなど、一連の流れで語ってもらうようにしたい。 | | インタビューの際は、当時の状況～現在の状況までお聞きする予定。ただし、展示映像として、どのコーナーで、どのように使用するかについては、あらかじめ了承を得て、構成していく。 | |
| 60 | 8年経過し、避難した方々等の関心はふるさととの関わり方に向いてきている。人の声（想い）は変化していくため、開館時にどうなっているかも検討する必要がある。できるだけ現状に沿ったものにしていきたい。 | | 展示の際はいつ収録された映像が記載し、あくまでもその時点の状況であることを補足する。できるだけ現状に沿った展示とするため、映像更新の頻度については、検討していきたい。 | |
| 61 | 県民の想いの要素は他のゾーン・最後にも出てくるのか？ | 復興への挑戦の最後では、復興に向かう県民の想いを入れる予定である。 | | |
| 62 | 展示スペースには限りがあるため、県内の他のアーカイブ施設との連携やそちらへの誘導も検討していただきたい。 | | 展示ゾーンでは「復興への挑戦」で周辺施設への回遊を促したいと考えている。また、運営面でも連携を図ることを想定している。 | |

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

| 分類 | ご意見・ご指摘 | 回答(当日) | 対応 | 備考 |
|-------------------------------|---|---|---|----|
| 長期化する原子力災害への対応 【ゾーン全体について】 | 63 タイトルについて、原子力災害ではなく「原子力被害への対応」の方がしっくりくる。「原子力災害」というと廃炉まで含まれるイメージ。 | | 「原子力被害」という言葉は一般的でないため、「原子力災害」のままとしたい。 廃炉については、新技術の開発と合わせて、「復興への挑戦」ゾーンで取り上げることとしたい。 | |
| | 64 第一原発の廃炉、汚染水、第二原発の廃炉についてはどう扱うのか？ | 廃炉については「復興への挑戦」で紹介する。また、詳細については廃炉資料館への回遊を促し、連携していきたい。 | | |
| | 65 線量のデータなどしっかりと科学的な裏付けと合わせて見せたい。 | | 国、県で公式に発表しているデータをもとに展示を構成する。 | |
| | 66 「原発から新たな放射性物質の拡散などの実態はない」ということをどこかで伝えた方がよい。 | | 原発の現在の状況については、「廃炉の今」コーナーで正しい情報を伝えていく。 | |
| | 67 展示と異なる見解について質問されることもあり得る。説明するスタッフなどはいるのか。一緒に考えていく、という姿勢がほしい。 | 展示アテンドスタッフを配置予定。その場で県としての見解を伝えることは難しいため、公式の見解については、一度持ち帰り、正式に回答するという対応になる。 ただし、あくまで個人の見解だという前置きのもと、当時の経験等をその場でお話する（語り部の機能）ことは実施していきたいと考えている。 | | |

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

参考 1

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

| 分類 | ご意見・ご指摘 | 回答（当日） | 対応 | 備考 |
|--|---|--|--|----|
| 長期化する原子力災害への対応 【風評の払拭】 | 68 4つのテーマの中で最初に見るものとして、「風評」という言葉を県民は理解しているが、県外の方がスムーズに理解できるかが課題。 他3つのテーマを踏まえて、「風評の払拭」が必要だと伝える順番の方が分かりやすいのでは。 | | 解説グラフィックの詳細内容製作と合わせて、以下のとおりコーナー順番を入れ替えることを検討。 ①除染 ②風評払拭 ③長期避難 ④健康不安 ゾーンの流れとしては以下を想定。 線量低減のため除染に取り組み、線量検査等を経て安心・安全な農林水産物等を提供する努力をしているが、風評が根強いということを伝え、払拭の取り組みを伝える。 次に、県民1人1人の生活に焦点をあて、長期避難、避難に伴う健康不安や、放射線の影響に対する不安への対応を伝える。 | |
| | 69 生産者側の意見に寄りすぎず、消費者側の意見にも寄り添いたい。生産者も消費者も安心できる環境を整えるため、実施している取り組み等の事実を伝えたい。 | | 素材調査を実施し、タッチパネルコンテンツ「風評の現在」で紹介することを検討する。 | |
| 長期化する原子力災害への対応 【除染の取り組み】 | 70 環境創造センターとの内容の重なりについてはどう考えているか。 | アーカイブ拠点に来た人が必ず環境創造センターに行くとは限らないため、展示構成上、多少の内容の重複は発生し得ると考えている。環境創造センターは開館後3年程度経過しているため、そちら側の成果をアーカイブ拠点にも活かせるようにしたい。 | | |
| | 71 初期は学校除染の問題など、さまざまな試行錯誤があったため、現在の状況と合わせて初期の状況もわかるようにする。 | | 素材調査を実施し、タッチパネルコンテンツ「除染の現在」で紹介することを検討する。 | |
| | 72 食品の安全対策の部分もしっかりと見せた方がよい。 | | 素材調査を実施し、「風評払拭」または「除染」コーナーで、タッチパネルコンテンツもしくは解説グラフィックで紹介する。 | |
| | 73 中間貯蔵施設については紹介するか？ | タッチパネル解説に含んでいる。 | | |
| | 74 中間貯蔵施設に加えて、その後の最終処分に関する情報提供も必要。中間貯蔵施設のテーマには、土地を手放した方々の想いも関わってくる。最終処分について方針が固まっていない点等、問題が残されていることを風化させないことも必要。 | | タッチパネルコンテンツ「除染の現在」で紹介することを検討する。 | |
| 75 事務局より、資料番号178（防護服）、179（フレコンバッグ）について展示スペースの都合上、他資料に先行して展示確定としたい旨説明。 | 【委員回答】2点について先行確定とする旨異論なし。 この2つは事故後の対応を象徴するものであるため、展示物としては必須。 | | | |

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

参考1

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

| 分類 | ご意見・ご指摘 | 回答（当日） | 対応 | 備考 |
|-----------------------------------|---|------------------------------|---|----|
| 長期化する原子力災害への対応 【長期避難に対する取り組み】 | 76 意見なし | | | |
| 長期化する原子力災害への対応 【健康不安に対する取り組み】 | 77 帰還した人が庭で育てた作物などについて、簡単に線量が測れる場所がある（富岡でも2～3カ所）。こういったことも展示で伝えられるとよい。 | | 風評払拭または健康不安コーナー内、タッチパネルか解説グラフィックで紹介することを検討する。 | |
| 復興への挑戦 【行政による復興への取り組み】 | 78 浜通りのみ取り上げるコーナーか？ | 県内全域の取り組みを扱っていく。 | | |
| | 79 A6-1（行政による復興への取り組み）とA6-4（12市町村の復興への取り組み）をまとめて展示していく方がわかりやすく感じる。 | | タッチパネルコンテンツ及び解説グラフィックの詳細内容の製作と合わせて検討する。 | |
| 復興への挑戦 【廃炉の今】 | 80 意見なし | | | |
| 復興への挑戦 【福島イノベーション・コースト構想の取り組み】 | 81 意見なし | | | |
| 復興への挑戦 【12市町村の復興への取り組み】 | 82 行政の取り組みのみ取り上げるか？ | 行政に限らず、市町村全体の復興への取り組みを伝えていく。 | | |

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

| 分類 | ご意見・ご指摘 | 回答（当日） | 対応 | 備考 |
|-------------------|--|---------------------------|--|----|
| 復興への挑戦 【みらいの街】 | 83 展示の最後をどう見せるかによって、配置を検討する方が良い。 | | 展示の最後は現行どおり「県民による復興への取り組み」とし、これからも未来へ向かって前向きに進む県民の姿を来館者に見てもらい、展示の最後とした。 | |
| | 84 みらいの街は、他の展示と違う、体験型の展示なので、これを展示の最後にする方が良いと感じる。 | | | |
| | 85 このコンテンツは、現在の街の姿と切り離して考えるということか。12市町村以外は街の構造自体に大きな変化はないので、基本的には帰還困難地域に特化した方が良いか。みらいの「街」を作らせることの意味をもう少し議論したい。 各個人が考える希望の街を作ってもらおうという趣旨で、「夢の街」というコンセプトでもよい。また、12市町村の震災前の姿を思い出しながら作ってもらおうというもよい。 | | 12市町村ではなく、あくまで会津地方、中通り、浜通りを模した3パターンの街づくりを検討している（現在の街の姿と直接リンクはさせない想定）。 子どもたちも楽しめる体験型コンテンツとして、街づくりを楽しみながら、福島イノベーション・コースト構想についても学べるような仕組みを検討中。 | |
| | 86 故郷は離れていても故郷であるため、これを見たときに明るく「こんな街が良い」とできるとよい。 | | | |
| | 87 みらいの街は、複数人で作業するとつり合いがとれなくなってしまうので、複数台用意し、個人で体験できるようにした方がよい。「みんなで作る」という名称も合わせて検討。 | | 来館者で協力して街づくりを行ってほしい。複数人で協力して作業できるよう、バランスに応じてメッセージを出現させる等の仕組みを検討したい。 | |
| | 88 個人で体験するのであれば、出力して持ち帰れるようにするとよい。 | | 出力式にすると、システム管理上、紙詰まりなどの故障リスクが高まるため、その場で確認するのみに止めたい。 | |
| | 89 帰還困難地域に住んでいた方は、別の場所で生活をしている。その決断も後世に伝えられるようにしたい。 | | 震災前とは違う地域で生活されている方々の想いについては「県民の想い」において、また、違う地域に移って始めた新たな取り組み等については「県民による復興への取り組み」において取り扱うことを検討する。 | |
| | 90 事務局より、資料番号190（子供が作る未来の街模型）、192（浪江町の昔の街の様子模型）について、体験形コンテンツとの関係が密接であるため、他資料に先行して展示確定としたい旨説明。 | 【委員回答】2点について先行確定とする旨異論なし。 | | |

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

参考 1

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

| 分類 | ご意見・ご指摘 | 回答(当日) | 対応 | 備考 |
|---|--|--------------------|---|----|
| 復興への挑戦 【県民による復興への 取り組み(チャレンジ! ふくしま)】 | 91 震災後の県民の復興への取り組みの中に、福島を今を伝える活動がある。これを若い人に引き継いでやっていく流れがあるため、再生だけではなく、現状を伝えていくための新しい活動も紹介したい。(ホープツアーなど) | | 解説グラフィックでの紹介、もしくは語り部・スタッフによる紹介など、運営面も考慮して検討する。 | |
| | 92 震災をきっかけとしてできた御縁、つながりを何らかの形で見せられるとよい。 | | 解説グラフィックでの紹介、もしくは語り部・スタッフによる紹介など、運営面も考慮して検討する。 | |
| | 93 福島県の若者(高校生等)だけが感じ取れたこと、伝えられることについて、取り上げるのもよい。 | | 解説グラフィック・証言映像での紹介、もしくは語り部・スタッフによる紹介など、運営面も考慮して検討する。 | |
| | 94 伝統・歴史・文化・自然を将来に残していく活動が多く行われているため、どこかで紹介したい。 | | 解説グラフィックでの紹介、もしくは語り部・スタッフによる紹介など、運営面も考慮して検討する。 | |
| | 95 来館者がメッセージを残せるようなコーナーがあってもよい。展示を見た後の想いを、言葉に残すことで、来館者自身も整理することができる。 | | 展示を見た後にメッセージを残すことを考慮し、展示室外側の廊下や1階エントランスホールなどで設置可否を検討する。 | |
| 全体・共通 | 97 県民の想いのゾーンは何名入るか?全部の証言を見せることは難しいので、皆が一斉に聞けるとよい。 | 20~30名程度。 | | |
| | 98 全体的見学時間はどの程度を考えているか。ツアーへの組み込み等を考慮し、所要時間はあらかじめ決めておいたほうが良い。 | 1時間~1時間半程度はかかる見込み。 | | |
| | 99 学校団体の来館が多く想定されるため、時間等見学アテンドの方法や、小学校高学年程度でもわかるような解説を検討したほうがよい。 | | 学校団体の場合は、基本的に語り部・スタッフによるアテンドを基本として考えている。タブレット端末を使った子ども用解説も検討している。 | |

